

# 令和 3 年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立幸手桜高等学校)

目指す学校像	夢を語る学校・・・卒業後の進路を明確にし、学ぶ意義を理解させる学校 感謝を学ぶ学校・・・地域との連携による体験学習を通じ、人の役に立つ尊さを学ぶ学校 使命感をもって巣立つ学校・・・社会に貢献できる有為な人材を育成する学校
--------	--

重点目標	1 基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ意欲をもった生徒を育成する。 2 本校の特色・強みを発信するとともに、地域・外部機関と連携した開かれた学校づくりを推進する。 3 計画的・組織的な進路指導を行い、進路意識を高めて進路希望を実現させる。 4 規範意識を醸成させるとともに、学校行事や部活動などを通じて実社会的で自立する力を育成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務員(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価						
年 度 目 標		実 施 日 令和4年2月8日						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>〔現状〕 「朝学習」指導は「レディネス」として一定の成果を上げている。一方、一部の生徒の遅刻や学習への取組が不十分となっている。生徒の学習意欲の向上を図り、課外学習の習慣化を図ることが重要である。</p> <p>〔課題〕 ・文理系と商業系の特色を出し、系列の特色を生かした進路実現を図ること。 ・欠点保有者や学習支援を要する生徒への組織的な対応を教科と年次が連携して取り組むこと。 ・朝学習の監督や生徒実態に即した指導と学習内容の改善を進めること。 ・新学習指導要領を踏まえ、生徒の学力向上に向けた授業改善を進めること。 ・スクールポリシーの策定、観点別学習評価実施に向けて評価基準の明確化に向けた準備を進めること。</p> <p>現状を踏まえたうえで上記5点を課題とする。</p>	<p>○基礎学力の定着と授業改善を推進し、生徒の学力向上を図る。</p> <p>○授業公開による教員相互の学びあいを通して、教員の授業力と指導力を向上させる。</p> <p>○育成したい資質能力、スクールポリシー、評価の観点の明確化を図る。</p> <p>○各教員が自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や学力向上のための具体的な授業改善策を明示して取り組む。</p>	<p>①各年次による巡回指導等を通して、毎時チャイム着席を確認し、規律ある学習環境を確保する。 ②少人数クラス展開や、習熟度授業によるきめ細かな学習指導により学力向上を図る。 ③授業公開週間を活用し、教員相互の授業改善を図る。 ④タブレット端末や、プロジェクタを活用し、生徒の興味や関心を高める授業づくりを推進する。 ⑤各年次が主体となり朝学習の質を高める。 ⑥長期休業中を中心にして、各教科による進学補講、資格取得に向けた補習を充実する。 ⑦学習サポーターの活用による成績不振者への指導を充実させる。 ⑧育成したい資質能力やスクールポリシー、評価の観点の明確化を図る。 ⑨自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や授業改善策を示し、実践する。</p>	<p>①②③④⑤⑥⑦学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が向上したか。 ②④⑤⑥⑦成績優良者は増加したか。 ②⑤⑦成績不振者は減少したか。 ④授業改善の取組が推進されたか。 ⑥進学補講や資格取得のための補習や補充授業等の充実が図られたか。 ⑦成績不振者の減少が図られたか。 ⑧育成したい資質能力やスクールポリシー、評価の観点の明確化を図られたか。 ⑨自己評価シートに示された生徒の主体性を育む方策や授業改善策について取り組みがなされたか。</p>	<p>①②③④⑤⑥⑦ 満足度 71.1% 一昨年度比 +4.1% ②④⑤⑥⑦成績優良者 66人→71人 前年度比+5人②⑤⑦成績不振者 112人→73人 前年度比-39人 ④授業改善の取組 満足度 +4.1% ⑥進学補講や資格取得のための補習 32講座68名参加 補充授業等の充実 学習サポーターによる補習 夏季休業期中5日間25名のスタッフにより生徒50名を対象に成績不振科目解消を目的とした補習を実施。 ⑦成績不振者の減少 112人→73人 前年度比-39人 ⑧スクールポリシー、評価の観点の明確化 観点別評価研修会・教育課程委員会・学校評価懇話会で原案を協議し、年度中に完成予定。 ⑨生徒の主体性を育む方策や授業改善策などの取り組み 管理職による授業観察、未来学び研究授業、県外・県内先進校視察を実施した。</p>	A	<p>校内巡回や朝学習は着実に効果を上げているが、一部生徒の取組の甘さが確認されている。 成績優良者は例年並みであるものの、成績不振者は3割減となった。更なる改善のため、家庭との連携を強め、学習指導にあたりたい。 進学補講や資格取得補習など、多くの教員の献身的な取り組みで実施された。また、成績不振者への補習も同様に開催されたが、自覚に欠ける生徒への指導が課題である。タブレット本体や充電器の整備が進んでいるが、家庭におけるWifi環境は足並みが揃わず、家庭学習の実践の障壁になっている。 学習サポーターの活用は、通年導入・実施の検討が必要と考えられる。(今年度はコロナ感染状況を踏まえ、予定を大幅に変更した)</p>	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等 成績優良者が昨年の66名から71人に増加し、成績不振者が昨年の112人から73人にまで減少したことは素晴らしい成果だと考える。来年度は成績優秀者の数が成績不振者を上回ることを期待したい。 校内見学をした際、生徒たちがとても落ち着いて学習に向かっている姿が学校の現状を表していると感じた。 成績下位層への指導は大きな成果を上げていると思われる。今後は、中堅層・そして上位層への働きかけにより、就職にも進学にも強い学校として認知される結果が求められる。 今年度、大学入共通テスト受験者が2名とのことであったが、多様な進学の機会を活かし、大学進学者を増やすことで、学校の社会的評価を高めてもらいたい。</p>
2	<p>〔現状〕 コロナ禍による地域のイベントの中止により、これまで実施してきた連携事業は全て止まっている。感染症の状況を注視しつつ、現状でできる連携事業を模索する必要がある。</p> <p>〔課題〕 ・本校の様々な取組や成果について、積極的に中学生や保護者、県民に発信すること。 ・広報活動を広域的に進め、生徒募集を学校全体で取り組むこと。地域、商工会、大学等との新たな連携を構築すること。</p> <p>現状を踏まえたうえで上記2点を課題とする。</p>	<p>○地域行事への参加と連携による本校教育力の向上、学校説明会等による情報発信の充実を図る。</p> <p>○本校を第1志望とする受検生への丁寧な対応と、積極的な生徒募集活動を展開し、本校志願倍率1.1倍を目指す。</p>	<p>①幸手市や大学との連携を活用し、学習機会を増やす。 ②広報部を中心に、中学校訪問や学校説明会等において、系列や進路状況等を強調して説明を行うなど、具体的な情報発信を行う。 ③HPの更新頻度を高め、効果的な情報発信を行う。 ④生徒会や商業系を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤部活動による小学校・中学校・地域との交流を実施する。 ⑥地域の中学校との情報交換の場を新たに立ち上げ、積極的な生徒募集を進める。</p>	<p>①活動を通して得られた教育力を生徒に還元し、成果を広域に情報発信ができたか。 ②⑥1月、2月の説明会に新規の参加者を集めることができたか。 ③HPの更新回数やアクセス件数が増えたか。また、様々な組織(年次・分掌・部活動等)で更新する対応ができたか。 ④生徒主体の地域連携活動(文化祭・市民祭りの参加)ができたか。 ④⑤マーケティング活動を中心に、地域行事に参加し、地域の活力を本校に呼び込むことができたか。</p>	<p>①本年度6月幸手市との包括連携協定を締結した。社会教育課との連携事業を12月に実施した。 ②⑥新規参加者 12月35名、1月44名 2月は時期を前倒し、1月に2回実施した。 ③広報部によるHP更新は大幅に改善されたが、部活動や年次等の活動紹介記事の掲載は昨年並みにとどまっている。 ④ステーションギャラリーでの作品展示(12月)、幸手中学校との道德ポスター制作プロジェクト、SDGS作文・標語コンテスト最優秀賞受賞商工会と写真部による撮影会(R3.12.24埼玉新聞) ④⑤幸手市商工会との連携による「広告と販売促進」におけるHP作成</p>	B	<p>説明会への参加者が毎回前年度を上回り、アンケート結果も9割以上から高評価を戴いた。HPの更新やビュー機能を付加したことや学校PRが図られている。 北葛地域連絡協議会を中高連携の足場とし、地域に根差した学校づくりをPRし、本校の求める生徒の確保が課題である。 管理職・広報部による中学校訪問・塾訪問を実施しているが、個別の出願状況を洗い出し、訪問先の見直しや訪問頻度の検討が必要である。</p>	<p>広報部によるHP更新は大幅に改善されたが、部活動の掲載はあまり変わっていない印象である。中学生は部活動が活発な学校に通いたいと考えられることから、部活動に関する情報掲載を増やすことが課題ではないか。 スクールポリシー、カリキュラムポリシー、資質・育成ルブリックいずれもすべて明確で達成し得るポリシーだと思う。 生徒・保護者に周知して生徒の資質能力向上につなげてほしい。 「調べ学習・分析・発表」等は大学や就職先でもいいに役立つのではないかと、国語のルブリックの中で「主体的に学習に取り組む態度」向上のため、「評価できる力の育成」を加えてはどうか。</p>
3	<p>〔現状〕 コロナ禍や大学入試改革等の影響により、進路指導や就職指導に対して先行きが不透明な状況がある。本校生徒のキャリア形成を図るため、最新の情報をもとにキャリア教育の充実をさせることが重要である。</p> <p>〔課題〕 ・感染状況を見極め、健康管理と感染防止対策を図りつつ、インターンシップ等の教育活動により、将来の職業観や就業意欲を高める指導の充実を進めること。 ・キャリアパスポート(手帳を含む)による明確な目標設定や資格取得を生徒に定着させること。 ・e-ポートフォリオ等の活用に向けた教員の意識向上と研修を進めること。</p> <p>現状を踏まえたうえで上記3点を課題とする。</p>	<p>○計画的・組織的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。</p> <p>○生徒のキャリア意識向上のために分掌・年次・教科を横断する体制を構築する。</p> <p>○進路指導のツールを活用する為、教員研修を充実させる。</p>	<p>①手帳による活動の記録を年間を通して習慣化させ、進路活動に役立てる。生徒自身の自己管理能力を高める。 ②進路指導部と年次の連携により、3年間を見据えた進路活動を適切な時期に効果的に実施する。 ③生徒の進路実現に向け、組織的に補習や面接指導等に取り組む。 ④「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を活用し、自己肯定感を確立させると共にキャリア教育を充実させる。 ⑤各クラス担任がキャリアカウンセリング的面談を繰り返し行い、生徒の進路意識を向上させ、進路決定時のミスマッチを防止する。</p>	<p>①②③④⑤学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が向上し、意識啓発に結びついたか。 ①②③④⑤進路決定率が向上したか。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できたか。また、生徒の満足度はどうだったか。 ⑤生徒、保護者、担任が三位一体となり、ベクトルを合わせ進路指導を行い、自己実現を果たしたか。</p>	<p>①②③④⑤ 進路指導満足度 73.7% 昨年に続きインターンシップ実施できず ①②③④⑤ 進路決定率 98.8% ④計画を修正し、集合型からリモート型で講演会やグループワークを実施した。 2年連続インターンシップ中止 生徒満足度 73.7% ⑤進路決定率 98.8% (決定者167名 自己開拓2名)</p>	B	<p>GoogleClassroomを活用し、求人票の公開や面談等を活発に行うことで、一人一人に寄り添った進路指導が行われた。その一方で、入社辞退者や金銭的問題による入学辞退者が現れたことは、今後の課題となった。三者面談に応じない保護者への対応に苦慮した。リモートや家庭訪問などあらゆる手段で面談設定を試みたが、実現に至らなかった。</p>	<p>進路決定率98.8%と比較すると、進路指導満足度の73.7%は少々見劣りしてしまうようにも感じられる。1/4の生徒の生徒が今まで以上に満足できるよう、改善の余地があると思われる。 幸手桜高校で学ぶメリットを周知し、地元で学ぶ生徒を増やしていくことが重要である。 インターンシップが2年連続で中止となったことはとても残念である。中高連携・中高連携を含め、外部との連携により、生徒の進路意識の啓発を図ってもらいたい。</p>
4	<p>〔現状〕 毎朝の校門指導や交通安全指導を行ったことで、生徒たちは落ち着いた学習環境の下、高校生活を送っている。</p> <p>〔課題〕 ・基本的な生活習慣の確立と、安全・安心な学校生活を実現するため、更なる学校環境の充実を図ること。 ・明るく元氣なあいさつを実行に移すこと。 ・部活動活性化策を推進し、本校で学ぶ強い意欲を持つ生徒の確保に努める。</p> <p>現状を踏まえたうえで上記3点を課題とする。</p>	<p>○規範意識の醸成や基本的な生活習慣の定着に向けた取組を推進し、生徒の自己管理能力を育み、主体的な学校生活づくりを進める。</p> <p>○部活動の活性化を図るため、地域の中学校などとの合同練習や招待試合等を行う。</p> <p>○挨拶の励行と、地域連携事業やボランティア活動を通して人間性豊かな生徒を育成する。</p>	<p>①基本的な生活習慣の定着や安心・安全の学校づくりのため、生徒指導部を中心に、携帯安全教室や薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施する。 特に、SNSが起因する生徒間トラブルを防止する。 ②生徒指導部と各年次の連携による登下校指導や整容指導、PTAと連携した交通安全指導を継続的に実施する。 ③教務部を中心に、皆勤を奨励する取組を実施する。 ④教育相談員を活用し、カウンセリングマインドを重視した生徒指導を充実させる。 ⑤成果や結果については報道機関への積極的な情報提供を行う。 ⑥部活動で中心的な役割を果たす生徒たちへの帰属意識高揚を図るための激励会を開催する。 ⑦挨拶を定着させる。 ⑧地域の方とのふれあいやボランティア活動を通じた人格形成を図る。</p>	<p>①生徒指導件数が減少するに至ったか。 SNSが原因・関係する生徒間トラブルが減少したか。 ②学校自己評価アンケートで、基本的な生活習慣及び学習に関する内容の達成状況が向上したか。 ③皆勤者数を増やすことができたか。 ④転退学者数は減少に至ったか ⑤⑥3年間継続し部活動を行う生徒が増えたか。 ⑦挨拶が定着したか。 ⑧人間性豊かな人格形成が図れたか。</p>	<p>①生徒指導件数 11→8件(-27.3%) SNSが原因・関係する生徒間トラブルは、横ばい状態である。 ②、基本的な生活習慣 欠席者前年度比1年次-28.1 2年次-20.4%学習内容の達成状況 増加傾向である。 成績優良者前年度2学期(2学期)比 1年次+10% 2年次+7.5% 3年次+4% ③皆勤者数 令和2年度末161名 令和3年度2学期末157名 夏休み明けに欠席者が増加 ④転退学者数 令和2年度50名 令和3年度22名 昨年度比-56% ⑤⑥部活動の満足度 61.7% 活動状況 1年次95.8% 2年次73.0% 3年次55.8% 学校全体76.1% ⑦挨拶ができていない 82.3% 生徒アンケート結果であるが、更なる指導が必要である。 ⑧ 転退学者数(割合) -22名、-56% きめ細かな学習指導や生徒の生きる力を育む行事や部活動など様々な教育活動を通じて人間育成</p>	B	<p>「幸手桜で頑張りたい」という強い気持ちを持つ生徒たちを核にして、学校の教育活動や部活動の更なる活性化を図る。 今年度、北葛地域連絡協議会を立ち上げ、13校の中学校の参加があった。本校の求める生徒像を中学校を通じて家庭・中学生に理解してもらうことで、「幸手桜で頑張りたい」生徒を増やし学校の活性化を図る必要がある。 部活動の活躍や各種コンテストの入賞、さらにギャラリーステーションの作品展示など学校PRに大きな貢献を果たした。メディア戦略も含め、幸手市との連携協定の一層の充実を進める必要がある。 きめ細かな生徒へのアプローチが落ち着いた学習環境の確保に大きな成果を果たしている。こうした成果を、北葛地域連絡協議会をはじめとして、広く中学校にアピールしてもらいたい。商業系列は一定の認知を得ていると考えられるが、文理系列の理解を深めてもらい、さらに部活動の活躍を広報し、「幸手桜で頑張りたい」生徒を一人でも多く集めてもらいたい。</p>	